

今日のキーワード 世界の「粗鋼生産」、6年ぶり減少（グローバル）

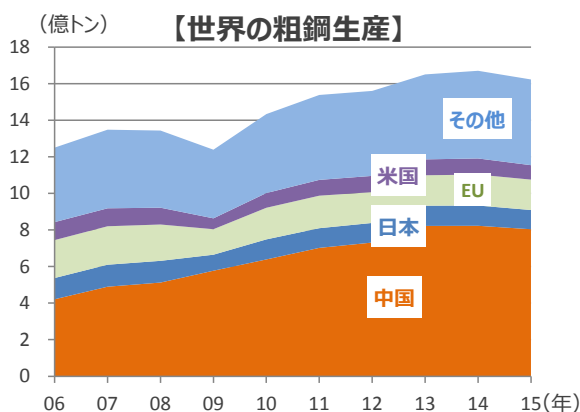
「粗鋼」は、鋼材の原料となる鋼（はがね）のことです。一般的には高炉に鉄鉱石と原料炭を投入して抽出した銑鉄から、転炉で炭素や不純物を除去したり、鉄の性質を向上させる元素を加えたりして作られます。高炉以外にも主に先進国では、鉄のスクラップを回収し、電気炉で溶解する方法もあります。「粗鋼生産」は、最終的な鋼材生産のバロメーターといえます。

ポイント1 中国は34年ぶりの減少 2015年は主要地域がいずれも減少

- 2015年の世界の「粗鋼生産」は、前年比2.8%減の16.2億トンとなりました。減少するのはリーマンショック後の2009年以来6年ぶりです。
- 国・地域別では世界生産の約半分を占める中国が2.3%減と、実に34年ぶりの減少となったほか、日本が5.0%減、米国が10.5%減、EUが1.8%減と、主要な生産国・地域がいずれもマイナスとなりました。

ポイント2 鋼材、原料とも価格下落 中国は輸入国から最大の輸出国へ

- 「粗鋼生産」減少の背景には、最大の消費国である中国の需要の落ち込みと、中国からの鋼材輸出増加により各地域の生産を圧迫していることがあります。2015年の中国の鋼材輸出量は、前年比20%程度増加したようです。中国はかつて世界最大の鋼材輸入国でしたが、現在は世界最大の輸出国に転じています。
- この結果、代表的な汎用品種であるホットコイル（熱延鋼板）の中国での価格は、年間約35%下落しました。原料の鉄鉱石や原料炭の国際価格もそれぞれ約39%、約31%下落しています。原料価格と製品価格が下落する悪循環に陥っています。



（注）データは、2006年～2015年。
（出所）IISI（世界鉄鋼連盟）のデータを基に三井住友アセット
マネジメント作成

今後の展開 中国の過剰設備解消が需給改善のカギ

■ 中国政府は過剰能力削減を表明

景気減速により、中国の2016年の鋼材消費量は伸び悩み見通しです。中国政府は1月4日、鉄鋼および石炭業界は過剰設備が問題とし、老朽設備や安全に問題のある設備の大幅な廃棄を実行すると表明しました。

■ 生産能力削減を実際に実行できるかがカギ

設備廃棄の表明は過去に何度も行われましたが、地方政府、企業の反発から十分に実行されませんでした。中国政府は、「粗鋼生産」の12～19%に相当する能力を削減する目標を打ち出しましたが、実際に実行に至るかが需給改善のカギと見られます。

**ここも
チェック！** 2016年 1月28日 米国の金融政策（2016年1月）
2016年 1月20日 「OPEC」と「シェールオイル」（グローバル）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。